

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2025/9/30

団体名	一般社団法人terra	活動タイトル	子ども・保護者・先生まごこと支援の地域社会基盤の構築		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体の実現したいビジョンは「自己選択・自己決定ができる幸せな生き方を支える」「一人ひとりの可能性が未来に伸びていく多様な学びの場を提案」することである。具体的には、選択できる学びの場であるフルイドスクールにおいて、体験ベースの学びを行い、登校の有無にかかわらず学びを楽しむ場を提供する。最終的には「不登校」のマイナスイメージを払拭することを目指す。そのためには、保護者、学校と子どもを取り巻く環境の整備が不可欠である。子どもを取り巻く社会が子ども基本法にある子どもの権利を尊重する社会作りをめざす		校外学習 「卒業旅行」		
●団体の社会的役割（ミッション）	当団体の社会的役割（ミッション）は、「すべての子どもたちの自分らしく生きる力支える」ことである。そのために具体的には以下の取り組みを推進する。 ○フルイドスクールterraでフレキシブルな学びの場を展開します ○子どもたちが安心して過ごせる場作りを行います ○子どもをとりまく大人とともに学べる場を提供します ※フルイドスクールterraで提供する授業を「プログラム」と称し学校における一般的な授業と区別している				
●団体の活動基盤	●人材育成と確保：活動基盤の強化として、特別支援に関する知識のある人材育成をスタッフとして採用する。学校支援が可能なファシリテーション力のスタッフ養成。プログラムの外部講師としての協力者のリスト作成 ●物的資源：活動の拠点となるリフォーム可能な広めの場所、及び食材や活動のための物品などをまかなうことができる寄付者や賛助会員のネットワーク構築と企業提携の構築 ●活動資金：企業連携や相談事業などの事業収入による団体裁量で使える自主財源（会費・寄付・自主事業）の確保と、学校支援のための委託事業の構築 ●ナレッジ：相談事業や学校研修などのノウハウを基に包括的支援を構築する			卒年次だった利用者が卒業旅行をしたいと自分たちで企画。新幹線の時間、施設の利用料金プランなど調べ計画。保護者の了解も各自説得し実施した。これまでもスクール内のイベントや近辺への校外学習はすべて自分たちで行ったが、新幹線に乗るというちょっとした冒険に向かう気持ちが育ってきた。	
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
●フルイドスクールterraのプログラム実施 スクール利用者の大幅な増加は無かったが、利用者の「やってみたい」とともに形にしたり、社会学習につながる体験を通してスクール生同士の関わりが生まれていった。進級、進学の時季を挟み自分で選択する姿が見られるようになった。 ●イベント活動等による社会とのつながり構築 放課後の学び場の定期開催や夏休みのサマースクールなどにより、学校や学童以外の居場所として活動を行うことができた。Terra+のプログラムとしてプログラミングや科学学習のサポートを実施するとともに活動を通してコミュニケーションや自己理解の内容を取り入れてきた。 ●学校サポート事業 モデル事業としてスタートした2校のうち1校は継続、ほかに2校をモデル事業として実施することができた。学級ファシリテーションを土台に子どもと教師、子ども同士の関わりを構築するだけでなく、授業改善の視点で校内研修を継続実施している。			●フルイドスクールterraのプログラム実施 助成期間中の定期利用 4 名 プログラム総数 60 自主イベント 1 2 参加総数 1 3 6 スクール生の登校率 9 5 % ●イベント活動等による社会とのつながり構築 夏のイベント 3 5 人 terra+ 定期利用利用 4 名 ●学校サポート事業 R 6 年度 2 校実施 満足度 9 0 % 令和 7 年度 3 校実施開始		
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題		
●外部講師とのネットワーク構築により、多様な職種の方の話を聞く機会を作ることができた。毎月定期的な開催のほかに単発で実施できることは子どもたちのキャリア形成につながっていくと感じている。 ●スタッフのファシリテーションスキルが一定のレベルにあることは場に安心安全をもたらし、保護者との関係性も良好になった。また、発達障害に関する資格を取得することでスタッフが共通理解のもとスクール生へ対応が可能になるように努めた。 ●放課後スタッフを固定化することで、継続的な支援が可能になると同時に、情報共有のための記録について検討することができた。今後は個別の指導計画などに発展させていきたい。 ●学校サポートプランを実施するにあたり、学校教育の現状を分析し、ファシリテーションの有効性と合わせた提案書を作成することができた。			今年度はスクール事業の充実に力を入れて行ってきた。しかし、そもそもの利用増加につながらないことを、現状の不登校数や周知の状況と合わせて考えると、保護者や学校を巻き込んで考えていくという課題が浮き彫りになった。COCOLOプランの実施で校内の居場所が充実されてきたとはいえまだまだ家から出ることができない、顔だけ出して登校、教室に入ることができないなどの現実がある。また、忙しい学校現場において教員自身も余裕がなくなっている。そういった状況を踏まえ、以下の大きな課題があると認識している。 ■学校に今通っている子どもたち、先生が、学校が楽しい居心地が良いと思える環境を作る。 ■「不登校」に対する保護者や教員、社会のマインドセットを行い、相談してもいい社会風土を作る。 ■発達障がい、不登校のマイノリティに対して、社会モデルで環境を整える。		
この1年間の活動を通して			当団体は自主プログラムを含む70の往路グラム展開でスクール利用者の学びを支えること、学校サポート実施校による子どもの学びをファシリテーションで支える活動を通し学校との連携のスタート		
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）					
・卒業年次のスクール生がそれぞれ登校という選択肢を選び中学校進学をした。同窓会がしたいとの声があった。 ・サマースクールを冬にやらないのかというリクエストがあがった。			を達成しました。		